

令和7年度宮城県災害薬事コーディネーター研修会を実施しました（2025/8/24）

テーマ：災害薬事コーディネーター

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2025年8月24日（日）、東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）で令和7年度宮城県災害薬事コーディネーター研修会を実施しました。宮城県内の災害薬事コーディネーター、薬剤師、医薬品卸売業、業界団体、行政職員など22名が受講しました。本研修は、宮城県が災害薬事コーディネーター技能維持、また育成に向け実施する研修会で、当研究所共催、災害医療ACT研究所（宮城県石巻市）が業務委託を受け実施しています。今年度で4回目の開催となります。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

災害医療が円滑に機能し被災者の健康を守るために、医薬品は不可欠です。宮城県では、東日本大震災や令和元年東日本台風の対応経験から令和3年3月に災害時薬事関連業務マニュアルを整備し、県災害薬事コーディネーター業務を明記、令和4年2月以降、薬剤師23名に県災害薬事コーディネーターを委嘱しています。

当日は、宮城県保健福祉部薬務課による県災害薬事体制概要説明から研修が始まりました。災害薬事の実務を担う関係者が一堂に会し、被害想定のか考え方、情報記録・伝達、資源管理などについて講義を受けました。また、モバイルファーマシー（移動薬局）運用や感染症といった具体的課題に対する討議実習を行いました。災害関連研修に初めて臨んだ受講者も多く、受講者からは「災害時の課題・混乱を理解することができた」などの感想が寄せられました。

社会の災害対応力向上にはそれを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催していきます。



宮城県保健福祉部薬務課から
県内災害薬事体制について説明



医薬品卸業者から
災害対策について説明



災害時、無秩序に集まる情報を
整理して共有する



モバイルファーマシー運用について
グループで討議する

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）